

会 議 録

会議の名称	平成 24 年度 第 2 回富士見市図書館協議会
開催日時	平成 24 年 6 月 16 日 (土) 午前 10 時 00 分 ~ 12 時 00 分
開催場所	中央図書館 レセプション室
出席者	高橋 さかえ委員 岩本 喜直委員 上松 恵美子委員 大澤 茂和委員 京谷 恵子委員 小林 恵子委員 高居 正博委員 中澤 佳珠代委員 野村 富雄委員 教育委員会生涯学習課 金田課長 林図書館担当 事務局 根来中央図書館長 一戸中央図書館副館長 赤本鶴瀬西分館長 岩崎ふじみ野分館長
欠席者	内田 弘 委員
公開・非公開	公開 (傍聴人 0 人)
会議次第	委員長あいさつ 報告連絡事項等 1 図書館主催事業について 協議事項 1 「図書館サービス計画」「子ども読書活動推進計画」について
会議資料	・富士見市立図書館各館の開催事業報告 (5 月中旬 ~ 6 月中旬) ・地区別利用登録状況 ・貸出冊数・利用者数・人口の推移 ・各館の広報紙 さざなみだより 6 月号 とびらしんばん 6 月号 BOOK ADVENTURES 166 号 にこにこひろば 6 月号 つるせにしんばん 39 号 ・富士見の公民館 平成 23 年度事業記録 (委員のみ)
会議録確認	高橋 さかえ 委員
議 事 内 容	
<p>【報告連絡事項】</p> <p>1. 図書館主催事業について 各館で実施した 5 月中旬から 6 月中旬までの開催行事について報告を行った。</p> <p>【協議事項】</p> <p>1. 「図書館サービス計画」「子ども読書活動推進計画」について</p>	

計画策定にあたり、基本情報として、図書館への利用登録状況や平成 13 年以降の図書館利用状況と人口の推移を資料に基づき説明した。また、富士見市近隣の地図で各施設のサービス圏などについて説明し、委員からの意見を求めた。

委員：活動をしているなかでも、東上線線路を隔てた違いを感じることもある。線路西側も移動図書館ではずいぶん利用があったはず。

委員：人口が多いところでも図書館が遠い地域がある。今からでも移動図書館があったほうが良いとおもう。

委員：子供の頃に移動図書館車にお世話になった思い出がある。復活を望む声もあると思う。

委員：地理的に見れば、三芳や志木の図書館もそれほど距離は変わらずにいくことができる。そちらを利用しているのではないか。

委員：いつ行っても止められる規模の駐車場があることも大切。

委員：いきやすさも大事だが、蔵書数が豊富であることも大事である。

委員：学校や高齢者施設などとの連携を図ることはできないか。

委員：学校の中の図書館というのは入りにくいかもしれない。学校側も防犯上の配慮は必要になる。

委員：文化施設として図書館があり、健全な大人がいっぱい出入することはプラス面もある。

委員：学校の図書室の蔵書状況や利用状況などを知ることはできないか。

市：次回の協議会では子どもの読書環境に関連した議論を行う予定なので用意できるか検討する。

委員：中央館周辺は公共施設が集まっているが、市内巡回バスの便は、ちょうどよいものがないと感じている。

委員：働き盛りの世代の人は 19 時閉館では利用しづらいので、その世代に向けたサービスを考えてはどうか。駅構内や周辺にサービスポイントを設けるなど。

委員：図書館の来館者数と貸出者数との関係は

市：中央図書館では平成 22 年度で約 29 万人来館。資料の利用者数は貸出した人数です。来館者数は貸出や雑誌新聞などの閲覧、事業参加などの図書館サービスを受けた方の数と考えられます。

委員：介護施設入所者などの図書館利用状況はわかるのか

図：団体としての利用はないと思います。入所者個人の利用は把握できません。

委員：都内の病院に入院したときに「図書館が来ます」の張り紙があった。楽しみにしている患者がたくさん訪れていたことが印象に残っている。

委員：高齢者や入院患者以外にも、自分では動きにくい人に広げて考えると、介護をしている人など対象に入ってくるだろう。

委員：高齢世代にはインターネットに不慣れな人もいる。公共施設で予約操作を教えてもらえたり代行などをしてくれる人がいるとよいのではないか。

委員：パソコンの使い方がわからない人もいる。図書館に来ればそのようなこともふくめて情報にアクセスできるようになっていくというのも必要と思う。

委員：高齢になりパソコンを使うことをやめる人も出てくるだろう。電話での相談ができるというのはもっとアピールしていかないと。電話というのは最後に残ってくる手段かもしれない。

委員：レファレンスカウンターで相談したら、職員は端末で調べ、自分がほしい内容の本を何冊か用意してくれた。特別な仕組みがあるのかもしれないが、このようなことが図書館窓口以外でもできるようになるといいのだが。

市：職員の本や情報源に関する体系的な知識や調査力に加え、蔵書という情報が目の前にあってすぐ参照できるから実現できている部分もある。来館しにくい方を考慮して、Webでレファレンスを受けられるようにしたりと今も工夫を続けている。

委員：図書館のホームページを利用している人は、普段図書館を利用している人が多いのではないか。このような方にもっと図書館の使い方などが伝わるような案内や講座があるといいのではないか。

委員：職員が知っている検索のコツなどが、図書館に来た時に教えてもらえる機会があるといい。図書館を楽しく使えるような講座などができるとよいのではないか。

委員：交流センターや公民館で本の受け取り返却ができることも知らない人がいると思う。今行っている図書館のサービスのPRがもっと必要と思う。

委員：所蔵資料は多いに越したことはないが、分館のように所蔵が少なくても、中央館や近隣自治体から取り寄せることができれば、所蔵の少なさはカバーできる面もある。

次回は児童サービスを中心に討議を行なう予定。

次回開催日程

平成24年9月15日(土)午前10時から開催する。